

## 独自の染色技術、「昇華プリント」方式でオーダーユニフォームを提供

株式会社アクラム 奈良県北葛城郡広陵町

創業 1942 年の株式会社アクラムは、2002 年「FIFA ワールドカップ KOREA JAPAN」を契機にユニフォーム事業を開始。

以来、独自の染色技術、「昇華プリント」方式でユニフォーム特有の多品種小ロットに対応。

お客様が手にした時、「期待以上の満足感を持っていただけるような製品づくり」を目指して、生地裁断から昇華プリント、縫製、仕上げ、検品まで、ユニフォームの生産を一貫して行っている。

### 会社概要



会社名：株式会社アクラム  
所在地：奈良県北葛城郡広陵町  
大塚 507  
電話：0745-53-0001 (代)  
FAX：0745-53-0008  
創業：1942 年 5 月  
設立：1994 年 6 月  
代表者：代表取締役社長 勝谷 宗久  
資本金：5,900 万円  
従業員：40 名  
事業：ユニフォーム等の製造  
URL：<http://www.akuram.co.jp/>



本社工場

### 縫製からのユニフォーム生産への事業展開

縫製に関わる会社は年々減少傾向にある。そういった中で勝ち残っている会社は何か特徴を持っている。奈良県広陵町にある株式会社アクラムも

そのひとつだ。

創業 1942 年の同社は、戦前は家内工業で布帛縫製を行いかっぽう着などを、戦時中には軍服を作っていた。高度成長期に入り衣服の生産量は増加したが、利益率が低かった。その後も売上げが減少、在庫が増加するといった厳しい時代が続いた。しかし、ワールドカップ KOREA JAPAN が開催された 2002 年を転機にユニフォーム事業を開始し、現在はユニフォームを中心に事業展開し、業容を拡大させている。

### ユニフォーム事業の開始

「わが社の本当のお客様は誰だろう。そのお客様が本当に求めているものって何だろう？」そういった疑問からユニフォーム事業が始まった。従来大手メーカーの製品作りはメーカー主導の生産方式「プロダクトアウト」が主流だった。近年は「マーケットイン」、つまり顧客のニーズを十分に把握してそれを基本に製品やサービスを提供することが重要で、同社においてもこの考え方をとっている。「個々のお客様が本当に求めているものをお聞きし、心からお客様が満足していただける商品やサービスをご提供する。どんな小さな声にも耳を傾け、それを起点に生産を開始し、商品やサービスをご提供する」ことを経営理念としている。

今までのユニフォーム作りは、メーカー主導型で行われ顧客に販売されてきた。ユニフォームの多くは、既製品に、チーム名や番号を刺繍や熱圧着する方法で作られてきた。株式会社アクラムはこういった従来の方法とは違う独自の染色技術、「昇華プリント」方式を開発した。なお、同社はこの開発によって近畿経済産業局から、地域資源を活用して新商品の開発・生産を目指す企業を支援する「地域産業資源活用事業計画」の認定を受けている。

## 昇華プリント方式

昇華プリントとは、昇華インクを使って印刷した紙とポリエステル製の生地を合わせて、熱と圧力をかけることで固体のインクを気化させ、生地を染める特殊な染色方法である。株式会社アクラムでは、この昇華プリントの技術を使ってサッカーのユニフォームのほか、さまざまなスポーツユニフォームの製作を進めてきた。ユニフォームには欠かせないチーム名や番号にも昇華プリントを採用することで、色鮮やかで、しかも厚みなく染色できることから自然な着心地のユニフォームの製作が可能となった。



## 多品種小ロットのユニフォームにも対応

ご存じのとおりスポーツのユニフォームは一枚が違う。たとえ同じチームであってもゼッケンはバラバラ、氏名が入っているものもある。従って、大量生産ができない。まさに多品種小ロットの代表例だ。同社では生地裁断から昇華プリント、縫製、仕上げ、検品まで一貫生産を行うことでこれを可能としている。

また、ユニフォームの生産で問題となることがある。それは追加の注文があるということだ。例えば、メンバーが新しく加入した場合、おのずとユニフォームが必要となるわけで、しかも追加が数年後に起こることも少なくない。昇華プリントは版を使用しないことから、後日の注文に備えて版を残しておく必要がない。だから、何年後の注文であっても原則対応できる。これが同社の大きな強みである。もちろん追加注文は1枚から可能

である。

さらに、1枚ずつ作るということから、S・M・Lといった規格サイズでは合わないような別注品でもさほどコストをかけずに対応できるというメリットもある。そのうえ、生地を直接染色するため洗濯してもマークが剥がれたりボロボロになったりする心配もない。

複雑なグラデーションも対応でき、色目や絵柄について「個人やチームの好みに合わせて、ほぼ希望通りのユニフォームを作ることができます」と勝谷社長は胸を張る。



同社のユニフォーム製品群

## 信頼性重視と将来の展望

ユニフォーム事業の開始にあたり、同社ではまずは地元のサッカーチーム(高田FC)のユニフォーム生産を手がけた。それを機にスポーツ店の開拓を始めた。地元から近畿地方、東海から関東地方へと徐々に範囲を広げてきて、今後は日本全国を視野に入れて業績の更なる向上を目指している。

また、製造にあたり同社が順守していることがある。それは納期と高品質の厳守だ。「信頼性が大事」と考え、納期を100%守ることはもちろん、数年後の追加注文の際にも色柄を含めた製品の品質面を特に重要視している。

勝谷社長は、「『自分たちの能力に応じた仕事』をモットーに掲げ、大手のメーカーでは採算に合わないものでも我々には採算が合うものがある。これらを中心に、他社には真似のできない製品作りを確立していけたら」と将来を見据える。

同社では、今後、サッカーなどチームプレーのスポーツに限らず、ゴルフやフィットネスなど個人で行う競技にもマーケットは拡大すると期待している。(丸尾尚史、鶴山吉永)